第三部　西郷物語―西南戦争と名士による西郷評価

西郷さんは「政府に糾す（ただす）」（西郷暗殺計画）を旗印に挙兵します。取り調べて罪科を糾明することです。

全軍熊本鎮台（ちんだい）（熊本城）に向かって進発します。鎮台は地方を守る政府軍の軍隊です（後の師団）。

２月１４日に別府隊が先陣で出発です。

２月１９日に政府は征討令をだします。総督は有栖川宮熾仁（ありすがわのみやたるひと）親王。

政府は西郷、桐野、篠原の三人の官位をはぎ取ります。

西郷軍の幹部は、熊本鎮台からは攻撃はなく、もしくは西郷軍に協力して北上させてくれると期待していました。

思惑は外れました。鎮台兵は戦う姿勢です。

西郷さんも熊本に到着します。

２月２２日西郷軍は熊本城を総攻撃します。

籠城の熊本鎮台兵３５００人対し３倍の兵力で攻めました。激戦でしたが、一日の攻撃で落ちません。

鎮台側の砲力が圧倒的で、小銃の性能も西郷軍より優秀です。西郷軍が１発撃つ間に鎮台兵は３発撃てます。一兵の威力が３倍です。もちろん堅固城壁で守られています。

西郷軍はその日に作戦会議を開きます。

熊本城を囲みながら、政府軍が福岡から南下してくる田原坂（熊本城の北方）に西郷軍の主力を進軍させる作戦に切り替えました。

田原坂を中心にして２月２２日より１か月間、何度も激戦が繰り返されますが、結果的には西郷軍は大敗します。

ここで西郷さんの末弟小兵衛と一番大隊長の篠原国幹が戦死します。

西郷軍は熊本城の南に拠点を移しますが、南下してくる政府軍と熊本城の西

南の地から軍艦から上陸して来る政府軍に挟撃され、ここでも敗戦し、熊本城も解放されます（４月１５日)。三番大隊長永山弥一郎は自決します。
　西郷軍は宮崎県と熊本県南部のいくつかの拠点分かれて転戦します。
　西郷さんは人吉（熊本県）から宮崎へそして最終的に西郷軍は延岡に集結して政府軍と戦いますが大敗です（８月１４日)。戦い後、兵力は４０００人が２０００人になっていました。政府軍は６０，０００人。
　ここで西郷さんは兵を解散します。
　しかし西郷さんと有志３７０人は南九州を縦断して９月１日に鹿児島に戻り、城山に柵を築いて政府軍と戦闘します。
　政府軍は５０，０００人です。
　多勢に無勢西郷さんは鉄砲に撃たれたところで大隊長別府晋介に介錯を頼んで自決しました。
　大隊長村田新八は自刃、大隊長別府と辺見は刺し違えて死にます。
　城山での西郷軍の戦死者は１６０人
　城山の戦いは２３日間で終結です。

　明治１０年２月２０日から西郷さん自決の９月２４日の約７か月間が西南戦争でした。
　西郷さん以下大隊長のすべて６人は戦死、自決です。
　戦死者数は、西郷軍５０００人、政府軍６８００人でした（戊辰戦争では新政府軍の死者は３５００人幕府軍４６００人)。

　この戦争は西郷さんにとって勝ち目のない無謀な戦だったとの評価が当時も今も定説です。

　それではこの戦いの勝因、敗因についてです。
　政府軍の勝因です。
　大砲の数による敵陣破壊力の威力、最新式の元込め小銃の装備（西郷軍の旧式の先込め銃より３～４倍の速さで発射できる)。
　鉄道、軍艦、汽船による兵員、武器弾薬、兵糧の輸送、電信の活用（西郷軍にはなし)。
　全国から徴兵、徴募できる兵の数の多さ。

西郷軍の敗因です。
西郷の暗殺計画を糾すというだけで兵を起こすのは、私的なことで兵を起こしたことになる。大義名分がない。全国的に賛同が得られない。
全国の不平士族へは事前に呼びかける必要がある。そう出ないと一斉蜂起となって政府を倒せない。
軍の装備が政府軍より相当劣っている
弾薬不足、食料不足
通信戦が熊本までで、鹿児島には未設置（遠征隊と熊本の連絡な陸路だけ）
船舶がないに等しい。兵員や弾薬、食料の運搬は陸路だけ。九州から本州へはどうするつもりだったのか。
本拠地の鹿児島の防禦なし。簡単に政府軍に制圧される。
ようするに有力な参謀による戦略がいない。

西郷さんの功績は薩摩はもちろん長州、土佐、佐賀の討幕派の元志士の政府要人たちも認めるところで幕府側の多くの人にもその清廉潔白の人士として尊敬され一般の人々からも敬愛されていました
しかし西南戦争で逆賊となりました。

当時西郷さんを知る人たちが彼をどう見ていたのかを福沢諭吉先生に語ってもらいましょう。
福沢諭吉による反乱への政府の責任として次を上げています。
暗殺計画があったかどうかは分からないが、そんなものがないとしても政府には責任がある。
西郷が下野して鹿児島へ帰るについて、西郷は辞職でも、免職でもない。一緒に鹿児島に戻った兵も法に従っていない。制止せず、黙認。西郷には大将の給与を支給続ける。
鹿児島県の歳入は中央政府には入らない。これは鹿児島の私的兵士に俸禄を与えていたことになる。
鹿児島は独立国の体、政府が二つあるようなもの。
武器製作の場を鹿児島に設ける。
３～４年前から鹿児島が穏やかでないことは分かっていた。西郷がいるから安心と、西郷だけに頼った。

そして反乱への西郷の非たる所
部下の腕力を抑えきれなかった。
武器製造所はもっと以前に政府に返還すべきであった。
「政府に糾(ただ)すことあり」（西郷暗殺計画）では私的なことで大義名分にならない。薩摩人の人民の権利、政府圧政のひどさを云うべきである。
総評として、
武人であるが、大人の風采がある。
大事変に際しても余裕がある。
士族の気風を重んじているが、封建制度に執着する者ではない。
西郷は政府全体を転覆する者ではない。数名の高官を攻撃するだけである。
欠陥は不学であること。思想がない（儒教、禅学が修めているので西洋の政治、経済について無学の意味でしょう）。

総じて福沢先生は西郷さんが好きです。
外にインテリーで西郷好きの名士は、「代表的な日本人」を著した内村鑑三や「武士道」を著した新渡戸稲造や渋沢栄一などがいます。
西郷さんは農本主義と見られますが、このように西洋文明の啓蒙家からも好かれていました。

大久保利通は、西南戦争の翌年明治１１年５月東京紀尾井坂（千代田区）馬車を襲われ暗殺されました。
木戸孝允は西南戦争中の５月に４５歳で病没しました、西郷隆盛５１歳、大久保利通４９歳の生涯でした。
かくて明治維新の三傑は明治維新の１０年、１１年に立て続けに没しました。

西郷隆盛の心情、信念を現す言葉として、「敬天愛人」が有名です。
しばしば西郷さんは揮毫(きごう)にしました（額などに書く）。
「天を敬い、人を愛す。」
大いなる天（自然の摂理）に敬意を払い、大切にする。他人を思いやり、愛しなさい」。

天は他人も自分も平等に扱い愛してくださる。それと同じく自分を愛する心を以て他人を愛することが大事である。

西郷さんの上野の銅像についてです。
西郷が亡くなった時政府は国賊とし、マスコミも西郷さん非難の論調が大きかったのですが、その後西郷擁護論が出、国民一般も西郷の遺徳しのぶ声が出てきます。
明治２２年（１８８９）も憲法発布の大赦で正三位に復位します。
西郷隆盛の銅像を建てようとの声が出てきます。

除幕委員長　川村純義（薩摩　伯爵）、祝辞　山形有朋（長州、元総理大臣）、列席　西郷従道（弟）、大山巌（従弟）、黒田清隆（薩摩、元総理大臣）、勝海舟（元幕臣）、榎本武揚（元幕臣）等等８００人が銅像の除幕式に出席しました。

吉井、樺山、川村、西郷従道、大山、黒田は幼年より西郷にお世話になりながら政府側についた人たちです。
山形は汚職事件で責任を問われた時に、西郷に救われ、その後の地位を保てました。西郷に恩義がありながら政府軍の総指揮官でした。
勝海舟は徳川慶喜切腹、徳川本家断絶が討幕側で決まっていたのを西郷が救ってくれました。

除幕式に出席した妻の糸子が「こげんなお人じゃなかった」と語ったと言われています。顔なのか、服装（浴衣のような姿）のことなのか分かりません。
西郷さんの写真はありません。誰がモデルなのか。高村光雲作です。

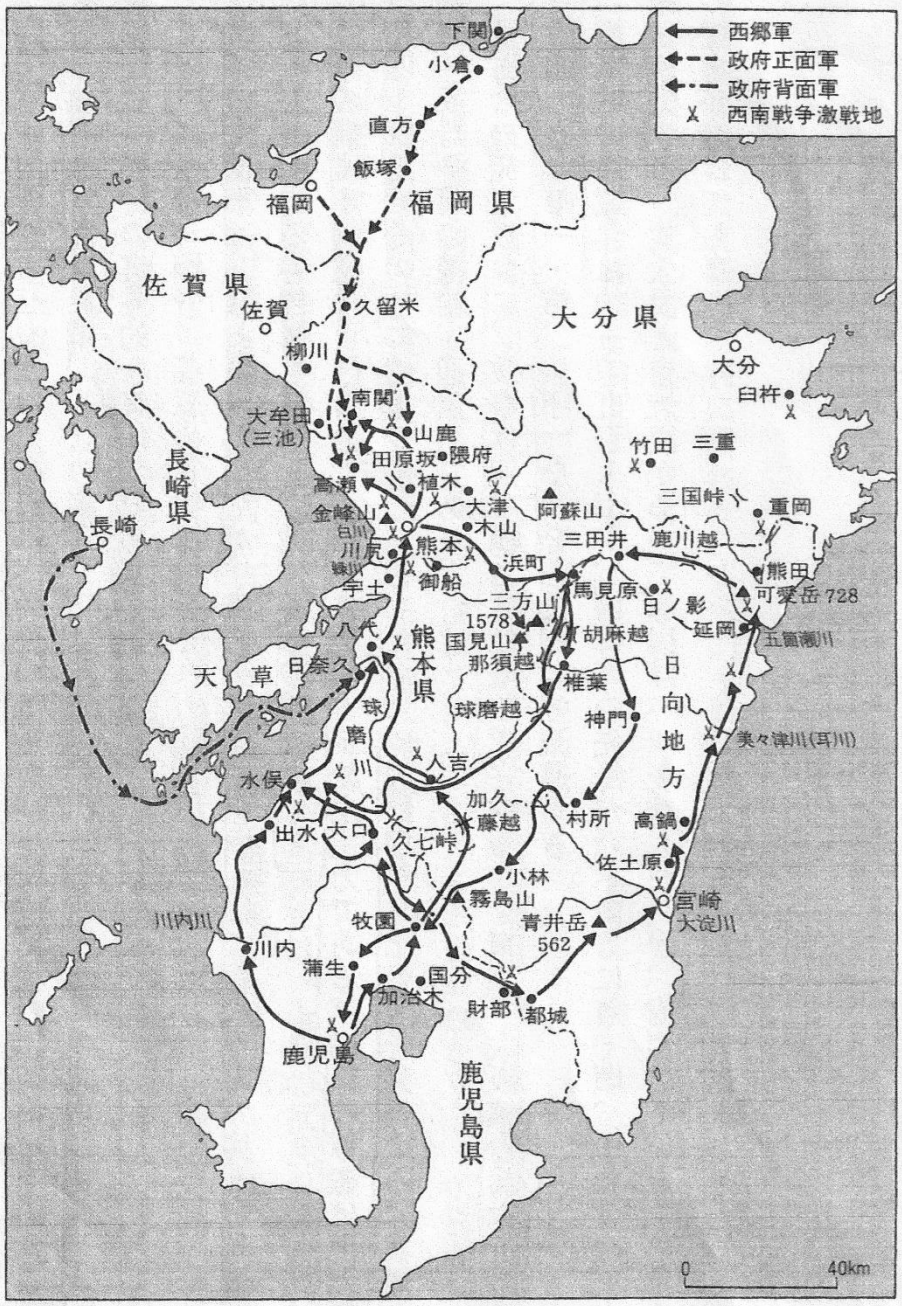
希代の英雄、革命家、豪傑で、性格は人間ばなれした無私、高士の風、透明度の高い感情の人と言われています。

以上

２０２３年2月２４日

梅　一声

西南戦争 西郷軍、政府軍主要進路図



小川原正道著『西南戦争』（中公新書）より転載